長期欠席・不登校に係る　　　　　　　　　　　　　　　年　　月　　日（　　）

記入例３（中学生）

**「ステップアップ・支援シートVer.2」**

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 平常 | **状態０** | **家　　　　　　　　　庭** | 学校集団生活を意識して | **教　　　室** |
| 遅刻欠席 | **状態１** |  | **自立応援室・保健室****（場所を分ける）** |  |
| 自立応援室・保健室又は欠席半分 | **状態２** | 学校以外の居場所 |  |  | 学校復帰を具体的に模索 |  | **放課後登校****（時間・場所を分ける）** |  |  |
| **教育支援センター** |
| **フリースクール****公民館** |
| 学校以外の施設へ | **状態３** |  |  | **↓**目標とする居場所へ向けた矢印 |
| **他** |  |  |
|  |
| 外出○ | **状態４** |  | **外出**一歩外へ | 「現状」・学習意欲はあり、教育支援センターへ毎日通うことができている。（高校に進学したい。）・教室で多くの人がいる中で授業を受けることに抵抗がある。（うるさくて落ち着かない、他人の評価が気になる。）・特定の仲の良い友人はいないが、話ができるクラスメイトはいる。・教員と話をすることは好き。 |
| 外出× | **状態５** |  |
| 引きこもり | **状態６** |  |
| （本人の思い）・教室で授業をうけることが嫌。教育支援センターで少人数での学習が落ち着く。・部活には参加したいが、しばらく参加してないので行きづらい。 |
| （保護者の思い）・本人が行きたくないなら無理して行く必要はない。・教育支援センターに毎日行くことができているので今はそれで良い。 |

○対応や支援のターゲットと具体的な支援

＊A・B両方の視点で、誰が、何をきっかけに、いつ、どこで何をするのかを具体的に考える。

|  |
| --- |
| A　長期欠席・不登校の要因や背景への対応　→　専門家や関係機関とも連携して　　　　・本人要因　　・家庭要因　　・学校要因B　休みの継続や登校のしにくさ（本人）への対応　　　　　　　　　　　　　　→　本人の「次のステップに進みたい」を引き出して |

＊どのような状態であっても、学校は定期的な家庭訪問を行い、児童生徒とのつながりを切らない。

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 対応 | 誰に | 誰が | 「支援策」何をきっかけに、いつ、どこで、何をするのか |
| A | 全教員本人保護者 | 担任・学年主任担任担任・自立応援室担当 | ・不登校対策担当会議で、本人の現状と、次のステップとして自立応援室登校や放課後登校を進めることを共有する。・登校した際には教員からの気軽な声かけを依頼する。　　・学校にも教育支援センターと同じように少人数で学習できる自立応援室があること、部屋の目的や過ごし方を説明する。・自立応援室での活動や目的について保護者に理解してもらい、自立応援室への登校に向けた協力を依頼する。 |
| B | 本人 | 担任・自立応援室担当教育支援センター指導員部活動顧問・部員 | ＊**現時点の居場所**での支援「**Push**」と、**目標とする居場所**からの支援「**Pull**」の両方の視点で支援内容を決定して記入すること。＊説明資料参照・授業時間帯の自立応援室の登校を進め、抵抗があるようであれば、放課後登校から始めることを提案する。・最初から１日でなくても、週に２日、午前中だけなど、短時間の利用からスタートすることも可能であることを伝える。（Pull）・自立応援室でオンライン授業を受けることができることも伝える。・本人が自立応援室へ行ってみたいがなかなか一歩を踏み出せない場合は、教育支援センターへ登校した日に指導員と一緒に登校する。（Push）　＊もしくは学校近くで待ち合わせをして一緒に登校する。・部へ参加しやすいよう、自立応援室に登校した際に声をかけたり、教育支援センターへ行き、部の予定等を伝えたりする。また、部に参加する前に、話ができる部員と関わりをもつ場をつくり、一緒に参加できるようにする。 |

長期欠席不登校対策に係る「ステップアップ支援シートVer.2」について（説明）

**１　シートの目的**

　　　対象児童生徒の現在の状態と居場所から、段階を一つでも上げるための支

　　援策を検討するツール。

**２　シートの活用について**

・　視覚化された居場所が示されたシートを学年会やケース会等で共有する。

・　「誰に対して」「誰が」「何をきっかけに」「いつ」「どこで」「何をするの

か」を具体的に検討する。

・　長期的な支援策ではなく、***「一ヵ月間、一学期間等短期的な支援策の検討」***

をする。

・　過去の欠席日数や家庭の状況等の情報が必要な場合は、アセスメントシー

トを併用する。

・　検討したシートは経過も含め、変容を後から確認出来るよう、データ又は紙媒体で保存する。

・　次のステップの支援策を検討する場合や支援がうまくいかず、他の支援方法を検討する場合は別のシートを使用する。

**３　活用方法の手順**

**「目標とする居場所の設定」**

・　シートの左側の表に現在の状態と居場所を蛍光ペン等でチェックする。

　・　現在の居場所から目標とする居場所へ矢印を引っ張る。矢印は複数あっ

てもよい。

　・　シート左側の「現状」には、本人の現在の状況や欠席の要因・背景を記入する。また、本人の趣味や特技、友人関係、関係機関等とのつながり、会議の中で出たキーワードとなることなども自由にメモする。

**「本人および保護者の思いの確認」**

・　現在の状況に対する本人及び保護者の思いを記入する。

　・　学校が立てる支援目標（短期）と保護者・本人の思いをリンクさせる。

**「Ａ・Ｂ二つの視点から、目標とする居場所へ向けた具体的な支援策の検討」**

◆A・B二つの視点

　◆A・B二つの視点

A対応：長期欠席・不登校の要因や背景への対応

B対応：登校のしにくさ（本人）への対応

**＊支援策は支援対象者の状況によってA、Bのどちらかだけになっても構わ**

**ない。**

・ 下にある「支援の為のリソース（参考）」に記載している、学校内外で考

えられるリソースの中から、支援対象者にとって有効と思われるものを使

って支援策を検討し、シートの右側に記入する。

・　B対応の支援策を検討する際には、Push・Pull両方の視点からのアクショ

ンを相互に連動させる。

Pull（目標とする居場所からの支援）

Push（現時点の居場所からの支援）

・　曖昧な支援策ではなく、具体的に「誰に対して」「誰が」「何をきっかけに」

「いつ」「どこで」「何をするのか」を検討する。

**４　その他**

・　担任だけが関わるのではなく、関係ある教職員や関係機関等が有効に関わ

る。

・　支援シートに記載している居場所や下記の支援の為のリソースは、あくま

でも参考である。地域によって実態が違う為、学校ごとに変更を加えても

よい。

「支援の為のリソース（参考）」

|  |  |
| --- | --- |
| 行事等 | ・運動会（体育会） ・学芸会（文化祭） ・修学旅行 ・定期テスト・クラス替え　・部活動の大会（コンクール） |
| 活動内容 | ・学習 ・運動 ・遊技 ・ICT ・その他 |
| 頻度 | ・毎日 ・週○○日 ・月○○日 |
| 時間 | ・朝 ・昼 ・放課後 ・○○時間 ・午前 ・午後 |
| 場所 | 学校 | ・教室 ・保健室 ・自立応援室 ・図書館 ・支援学級 ・グラウンド　・体育館 |
| 学校外 | ・教育支援センター ・フリースクール ・公民館 ・公園・放課後等デイサービス　・不登校親の会 |
| 本人の興味等 | ・部活　・趣味　・特技　・習い事 |
| 人 | 家庭 | ・父母　・きょうだい　・祖父母　・叔父母　・いとこ |
| 学校 | ・担任　・養護教諭　・管理職　・自立応援室担当教員　・生徒指導担当　・特別支援Co　・教科担任　・部活顧問・登校支援員　・支援員（　　　　　　　）　・友人 |
| 専門家 | ・SC　・SSW　・民生委員　・主任児童委員　・愛育委員 |
| 施設職員等 | ・教育支援センター　・フリースクール　・公民館・放課後等デイサービス　・不登校親の会 |
| 関係機関 | ・教育委員会　・市町村福祉部局　・児童相談所　・保健所 |

**＊「支援の為のリソース」は各校で地域にあるリソースに打ちかえて活用してください。**